

# 石神地区 村政懇談会

日 時：平成30年7月3日（火） 午後7時から午後9時まで

場 所：石神コミュニティセンター 会議室

出席者：村執行部（村長，副村長，教育長，企画総務部長，村民生活部長，福祉部長，産業部長，建設部長，教育部長，議会事務局長） 計10名

事務局（課長，課長補佐，係長，地域づくり推進課職員3名） 計6名

自治会長（外宿一区，外宿二区，内宿一区，内宿二区，竹瓦区） 計5名

参加者：外宿一区8名，外宿二区8名，内宿一区18名，内宿二区11名，

竹瓦区9名，その他58名

計112名

司会進行：竹瓦区自治会長 根本 暁

総計133名

## 《次第》

開会

1. 出席者紹介（村執行部及び自治会長）
2. 村長挨拶及び村政の説明
3. 2に対する質疑応答
4. 村執行部による村の事業紹介
5. 自由質問（一問一答形式）

閉会

## 《記録》

### 【2. 村長挨拶及び村政の説明】

こんばんは。今日が村政懇談会の初日である。今年度の村執行部が着ているイモゾーポロシャツは例年よりカラフルになっている。私がピンクのポロシャツを着るようになってからカラフルになった。この村政懇談会のスタイルも去年とは変わったと思う。雰囲気も変わったので従来とは違ったものになれば良いと思う。

私の話す時間は20分なので，早速資料を使って説明を始める。今日お話しする内容は，4月10日号の広報とうかいのおさらいになる部分もあるが，今年度の主な施策を紹介する。東海村は現時点では人口が減ってはいないが，年齢構成が変わってきているため，今後は間違いなく減る。また，地域づくりについてだが，石神地区においては地域の活動が活発で皆さんまだ元気であると思う。ただ，10年後に同じことができるかというところではないと思う。地域づくりをもう一度考え直す時期にきていると思う。

2ページ目に一般会計予算を載せている。まず歳入だが，全体の189億円のうちの109億円が村税によりまかなわれている。毎回同じことを述べるが，他の自治体では通常は税収は3割と言われている。東海村は7割を村税でまかなっているのでその部分で他より強い。みなさんへの行政サービスも高いレベルで維持できている。こ

## 石神地区 村政懇談会

の村税が減った時はどこかを削らないといけない状況になる。村税の中でも、73億円が固定資産税で7割以上を占めており、安定的な財源となっている。この情報だけ見ると109億円という数字は多いが、昨年度からは5億円程減っている。予算は189億円が変わっておらず、その足りない部分は財政調整基金という貯金のようなものを含め基金全体から20億切り崩している。税金と繰入金の兼ね合い、全体的な歳入確保が大きな課題となっている。しかし、私も県に勤めていた時、7年間財政を担当していたこともありしっかりと先行きを見通してやっていく。歳出については民生費が一番多いが、国や県絡みの補助金などもあるので増えている。今年度多い部分としては総務費の27億円である。石神地区に関連するところでは、除染廃棄物移設の費用として環境省から3億円交付されており、増えている。土木費は減らしているが、必要な部分の予算措置はしている。

3ページに移るが、1点目の子育て支援としては待機児童の問題はまだある。厚生労働省の待機児童の定義上で言うと、1人しかいないことになっているが、隠れ待機児童と呼ばれるものはたくさんいるので対策していく。来年度、病児病後児の受け入れ施設を東海病院の裏側にオープンできるように今年度施設整備をしていく。

2点目の産業振興の推進だが、今年度初めて商工業と農業を所管する産業部を作った。従来型の支援は引き続き行うが、新しい取り組みを始めたいと考え産業政策課を作った。農業は推進しているが、認定農業者等をはじめリーダーとなる農業者の農業力向上に向けた様々な施策をしたいと考えている。また、担い手不足や耕作放棄地の問題もあるため、農業公社設立については目途をつけるため検討したい。

3点目の国体の推進であるが、今年度はプレ大会ということで社会人チームの大会が開催される。今年度成功させないと来年度の本番も成功できないので、準備を進めている。まだ阿漕ヶ浦公園は一部整備ができていないため、急いでいる。東海駅西のロータリーなどの整備はできたが、一部道路などが残っているのでその部分も整備を進めている。ハード面の整備はできてきているが、来村された方へ東海村をアピールするなど、ソフト面の整備も急いで行っている。

4点目の（仮称）歴史と未来の交流館だが、議会でも指摘を受けている。昨年度、基本設計が終わったところだが、12月議会で様々な意見を受け、6月議会で基本設計の見直しを示したところである。詳しい内容については広報とうかい7月10号でお知らせする予定であるが、これから実施設計に入っていくところであり、今年度中に終わる予定である。最終的に平成33年にオープンさせる。昨年度も箱物を作りすぎだと指摘を受けたが、箱物を作りたいわけではなく、東海村の歴史も含めた郷土の成り立ちを子どもたちに伝える場所として整備したい。ただ、それだけに特化してしまうとどうしても教育的な施設になり、一般の人が行き辛くなるので、子どもたちが色んな活動ができるような複合施設にしたいと考えている。活動ができる部分と展示の兼ね合わせを考えている。この場所は子どもたちの財産になるものと考えている。税収が減っている時期になぜ作るのかとの意見もあるが、皆さんへの行政サービスに

## 石神地区 村政懇談会

は影響ないように運営していく。次回の広報とうかいで分かると思うが、現時点での交流館の見積額が当初12億円だったところ約16億円になっている。当時の積算がどうだったのかという点では役場として反省しなければならないが、面積も圧縮した上ではじいた数字なので、今後実施設計の中で金額も抑えながら考えていきたい。最終的に箱物を作って終わりにせず、ソフト面も整備して、村民の拠点となるようにしたい。

5点目の安全・安心体制の確保についてだが、まず「放射線量低減対策特別緊急事業」という難しい漢字が並んだ事業を実施することをお知らせする。現在、村内6か所に汚染土や枝葉がフレコンバックに入って置かれているが、今回、原子力研究開発機構の協力を得て移設することが決まった。皆さんが使っていた公園などを以前のように使えるように戻す。これは環境省の実証事業であり、同じ実証事業をやるにも原子力の施設がない所は苦勞しているため、東海村には原子力研究開発機構があってよかったと思う。また、基幹避難所となるコミセンの機能強化であるが、避難時の駐車場の問題がある。駐車場を拡張し、バスが入れるような進入道路の整備をしたい。

その他の施策であるが、今年度からコミセンの内装改修工事が始まる。村内6箇所を順次行っていくが、今年度は石神と村松を実施する。また、村内の道路だが、幹線道路については整備が進んでいるが、生活道路については進んでいない部分があるので一定の枠内で順次進めていきたい。また、総合体育館の工事が今年度後半に始まり、使えない時期が出てくるので御容赦願いたい。また、久慈川河川敷のソフトボール場は、今年度整備する予定であるが、多目的広場等はそのような形で整備するか今後検討する。

原子力政策であるが、東海第二発電所の再稼働について、規制委員会の審査は続いている。新規制基準に適合かどうか審査され、新聞では明日あたりに審査結果が出る。その辺は注視し、判断したい。一方、村の広域避難計画についてだが、案はできているが、本当に避難できるのか検証する必要がある。今年度も7月16日に訓練を実施する。避難場所は取手市であり、役場の災害対策本部も取手市の藤代庁舎に移す想定である。また、3月に新聞にも載ったが、新安全協定の締結ということで、東海第二発電所の再稼働には、東海村と同等に周辺5市（日立市、常陸太田市、那珂市、ひたちなか市、水戸市）にも実質的に事前了解が必要になった。具体的な運用はこれからになるが、周辺首長はこの辺も関与していく。また、4月に大洗、六ヶ所村、鏡野町と東海村の4町村で、原子力研究開発は必要とのことで推進するべく国へ方針の明確化、施設整備、人材育成・確保など要望することとなった。さっそく明日、4首長で東京にて要望活動を行う。

5ページは人口動態及び将来推計となっている。東海村は自然増減はマイナスであるが社会増減はプラスになっているので人口は維持できている。しかし出生数が減っているため、危機感を持っている。5ページであるが、上の2つの線は2005年と2010年の国勢調査をベースに推計したものであり、下の線は2015年の国勢調

## 石神地区 村政懇談会

査をベースに出したものであり、結果が異なっている。変わった理由としては若い人の人口が減ったことにある。5, 6年前の20~30代の人口が1万人いたのが、現在は7,500人になっている。子どもを産む世代がそれだけ減っているなのでこの先間違いなく減ってくる。仮に出生数が400人になっても下げ止まりは変えられず、それだけ深刻である。新聞などでは東海村だけ人口が増えているなど、評価されているが、それは数年前までの話であり、将来を考えると早く手を打たないと大変なことになる。

最後に地域づくりについて話をする。今の地域社会は個人主義が蔓延していると感じている。なかなか「向こう三軒両隣」という考え方が通用しない。普段のコミュニケーションを作っていくために自治会の様々な活動でなんとかつないできたが、若い人も自分の家庭が中心になってきており、地域の活動に出てこなくなっている。若い人たちに新しく地域の活動に入ってもらうためには今の活動を続けるだけではだめだと考えている。今の活動を見直さないと今後の活動は続かない。現在はよく活動されていると思うが、無理をしている部分がある。これから地域でどのようなことが必要か見直し、活動を絞り込まないともたないと思う。地域で考える際に、村が先導してしまうとどうしても押し付けたみたいになってしまうので、できるだけ地域の中で考えてもらいたい。ただ、考えるときに問題点ばかり出しては落ち込んでいくだけなので、ポジティブに考えていけるような話し合いをしたい。今年度はモデル地域として亀下区と緑ヶ丘区を指定してやっていきたいと考えている。やる以上は成果を出したい。みなさんにも動向を見てもらいたいと思う。以上で私からの説明を終わりにする。

### 【3. 2に対する質疑応答】

**竹瓦区住民：**4つの願いがある。1点目だが、堤防の下の道路は日立への通勤の車がスピードを出して走った際に穴が開いてしまう。村が気づいてくれるかと思ったが、気づいてくれないので電話したところすぐに対応していただいた。大変ありがたい。その部分と合わせて30~50mほど他の部分も修復してもらった。今回、村政懇談会があるので周辺の道路を見てきたがひび割れがあるところが多くある。穴が空いたから一時的に埋めるというような方法ではなく、計画的に修復してほしい。

2点目は先日のクリーン作戦の件であるが、これまでと比べてごみが少なかったと思う。その理由としては6月に竹瓦で独自に清掃活動をやったことと、草刈りをしっかりとやったことにあると思う。特に東海側がきれいになっている。ごみを捨てる人は必ずいると思うが、草が生えてなければごみを捨てる人も少なくなると思う。草刈りが抑止力となっていると思うので、国交省の管轄にはなってしまうと思うが、久慈川の反対側も同様に草刈りをしてもらいたい。

3点目は竹瓦橋の道標についてである。先日竹瓦橋に道標があることを知ったが、その道標が半分ほど草と土に埋もれていた。よく確認したところ、この道標は大正7

## 石神地区 村政懇談会

年に竹瓦青年団が作ったものであることが分かったが、土に埋もれていて悲しかった。文化遺産の継承伝達を大切にしてほしいと思う。村にもぜひ協力してほしい。竹瓦で勝手にやれと言われると悲しい。

4点目は石神城址公園の放射性廃棄物のことである。先日、石神城址公園の近くを歩いていたところ、除染廃棄物と思われるものがまとめて置いてあった。その付近の放射線量は公表されているのかと思い、インターネットで探したがどこに出ているか分からなかった。どこにそのような情報は載っているのか。また、村長の話によると除染廃棄物は移設されるということだが、移設した後も、その場所には廃棄物が少し残っている可能性もある。ぜひ放射線量を測定して、明確にしてほしい。また、日本原子力研究開発機構に移設した後の展望を聞かせてほしい。

**村長：**1点目は建設部で対応になり、生活道路や狭い道路の補修は今年度から予算の枠で実施していこうと考えている。ただ、優先順位もあるので状況を確認し、担当課と相談しながらきちんと対応したい。2点目の草刈りについてだが、管轄が国交省の分と村の分とがある。村の草刈りのタイミングに合わせて実施するように国にも伝えたい。道標についてだが、竹瓦だけでなく他も把握して確認し、対応したい。除染廃棄物及び除去土壌の話であるが、石神城址公園や真崎古墳群等から移設するので、その場所は放射性物質による汚染がないことを確認し、保管前の状態にする。除去土壌については、日本原子力研究開発機構の敷地内に埋立処分を行う。環境省では、この事業を通して行う環境モニタリング等により、安全性を確認する実証事業を実施し、福島県外の除去土壌の埋立処分に向けた基準作りの参考とする。公表の仕方は後で確認したい。いずれにしてもその後のフォローも含めてしっかり対応していく。

### 【4. 村執行部による村の事業紹介】

**副村長：**私は個別の事業あるわけではないので、本村の人口動態について詳しく話をしたい。先ほど村長から人口は横ばいであるが、出生者数が死亡者数を下回っており、若い世代が減っているという話があった。東海村でも人口減少が進んでいると捉えている。本村の65歳以上の割合であるが、昨年10月1日時点で24.14%となっている。この高齢人口の割合は、県内では4番目に低い数字となっている。1番低い所はつくば市の19.2%、2番目は守谷市の21.4%、3番目は神栖市の21.9%となっている。東海村はまだ若い人が多いと見られがちであるが、あくまで村全体の数字であり、地域の実態は見えてこない。村内の高齢人口の割合を小学校単位で見ると、低い地域では19%だが高い地域では27%となり、石神地区内でもかなり開きがある。石神地区だけでみても開きがあるが、村内の単位自治会別に見るともっと開きがある。原子力関係の事業所の単位自治会は0%である一方、高い地域は55%となり、半分以上が65歳以上となっている。全体で見ると24%と低いが、地区ごとだとかなりばらつきがある。石神地区は現在人口5,002人であるが、5年前の2012年だと5,158人いた。5年間で156人減っている。平均年齢は村全体

## 石神地区 村政懇談会

42. 74歳に対し、石神地区は47.68歳となっている。小学校単位で見ると現状では石神地区の平均年齢が一番高いことになる。石神地区の老齢人口割合は正確に言うと27.64%である。役場のまちづくりは総合計画等を作り、村全体の施策を行ってきたが、人口だけ見ても地域でかなり差が出ている。今後はまちづくりを進めるにあたって、村全体の施策も必要だが、もっと地域に視点を絞った施策を考えなければならない。地域のまちづくりを進めるにあたっては、役場先行というものでなく、地域と協議しながら進めていきたい。村長の施策である未来ビジョンの計画もこのような考えからきていることを御理解いただき、御協力いただければと思う。

**教育長：**はじめに、道標について触れるが、石神小学校にもある。また、船場に船場小学校があった時にも道標はあった。先人たちが残してきた過去の文化遺産等を（仮称）歴史と未来の交流館の建設と同時に発見していきたい。さて、石神小学校は来年度からコミュニティスクールとしてスタートするため、今年度は準備期間となっている。なぜ石神小学校をコミュニティスクールにしていくのかということについては、資料を見ていただきたい。これまで以上に自治会や村社協、村民会議、商工会など地域の方々と一緒に子どもたちを育てていかなければ学校が成り立たなくなっていく、社会性のある子どもたちが育たないと考える。具体的な例を挙げるが、先週、授業参観があり、2年生が野菜の成長を観察する授業があった。そこには枯れたきゅうりとトマトしかなかった。子どもたちが野菜の成長の様子を勉強したいと思った時に、地域にはいっぱい達人がいる。例えばミシンの使い方、魚の調理方法など、若い先生たちもなかなかできない部分を地域の達人と一緒に教えてもらうということができると思う。また逆に、1年生対象の交通安全教室を開催する際に、地域のお年寄りも一緒に参加してもらい、交通安全に関して再認識してもらうなどした方が色んな学びができると思う。一番は子どもたちに地域で様々なことに取り組んでいる大人たちの姿を見せていきたいと思う。地域が様々な人たちで作られているという体験が子どもたちには必要であると思う。このような理由でこれからコミュニティスクールに取り組んでいきたいと考えている。また、立哨指導は学校ではなく地域に任せたいと考えているのでよろしく願いしたい。

石神小学校は平成24年度に346人の児童が在籍していたのに対し、平成30年度は240人となっている。今の0歳児が6年生になる時は更に減って192人になる予測であり、その頃は全て単学級となってしまふ。少なくとも2学級あり、クラス替えをしながら成長していくことに良さがあると思っている。地域とともに石神幼稚園、石神小学校を盛り上げていきたい。第1回の準備会が8月頃にスタートする。よろしく願いしたい。

**企画総務部長：**組織改編により、昨年度まで村長公室と総務部だった部署が合わさり企画総務部となり、企画経営課、総務課、人事課、税務課、秘書広報課がある。今日は重点事項を3つお伝えしたい。まず1つ目は村が村の魅力をもっと内外に伝えていくための「シティプロモーション推進事業」という秘書広報課が担当するものを紹介する。

## 石神地区 村政懇談会

シティプロモーションとは地域の魅力等を再確認し、住民同士の郷土愛を上げていくというものである。一般的には自治体の知名度を上げることや観光振興が目的となっているが、単に情報発信するだけでなく、村をよりよく、「東海村が好きだ」と思える人が増えていくような取組をしたい。東海村民自身が東海村に興味をもってもらい、村外に住んでいる子や孫へ情報が伝わるようにしたいと考えている。これまで村では観光パンフレットなどは作ってきたが、東海村の魅力を発信するものはなかった。今回、「STORY」という東海村の魅力発信に関する冊子を作り、その取組の中では「東海村を愛する研究所」というキャッチコピーも作った。お帰りの際に興味のある方はこれらの冊子を持ち帰って読んでいただきたい。そして東海村を愛する研究所の研究員にもぜひなっていただきたい。

2つ目として、今年度は国体のリハーサル大会を行うが、実際に阿漕ヶ浦の会場で応援等をする「とうかい国体盛り上げ隊」を発足し、商工会や真崎区自治会、観光協会の方々に協力いただいている。ぜひ石神地区の皆さんにも参加してほしい。東海村から日本代表の選手が出るくらい盛り上げたいと思っているので、御協力いただければと思う。

3つ目は12月に実施される茨城県県議会選挙のことである。18歳以上が投票できるようになってから4回目の選挙となるので、皆さん一緒に選挙会場に来ていただきたいと思う。東海村では70歳前後の投票率が70%程度となっているが東海村全体としては50数%であるので、若い世代も誘って投票に行き投票率を上げていただきたい。

**村民生活部長**：村民生活部では地域づくり推進課、環境政策課、防災原子力安全課の3課を所管している。本日は全村的な事項として2点、石神地区に関わる事項として1点紹介する。まず、広域避難計画策定に関してだが、資料1ページに書いてあり今年度も避難訓練を実施する。現在、東海村の人口は約38,000人、東海第2原発からおおむね5kmの範囲内にあり、原子力事故災害時の放射線被ばくの影響を回避するため、放射性物質が放出する前段階から予防的に準備するPAZ圏に入っている。今回の避難先としては、茨城県が指定した市として取手市、守谷市、つくばみらい市がある。これまで、村として広域避難計画に関しては平成26年から昨年にかけて住民意見交換や説明会を14回実施してきている。また、この避難計画内容の検証と実行性の向上を図るために、広域避難訓練を昨年7月30日にも実施し、今年度は7月16日に実施する。今年度は住民への広報訓練のほか、自主防災組織や公募住民の協力を得て避難先である取手市への住民避難活動訓練、村の災害対策本部の機能移転訓練等を実施する予定である。広域避難計画の策定にあたっては、関係機関等との協議、課題等の洗い出しを行いながら住民への周知を図っていきたいと思う。

2点目は資料の2ページを参照していただきたい。福島第一原子力発電所事故後の除染作業により生じた除去土壌や除染廃棄物の処分を実施するものである。豊岡なぎさの森、真崎古墳群、石神城址公園、白方公園、阿漕ヶ浦公園、平原南部工業団地の

## 石神地区 村政懇談会

村内6箇所に保管しているものを環境省の実証事業として移設を行うものである。日本原子力開発機構の協力を得て、除去土壌を埋設処分し、除染廃棄物は移設保管する。今年の9月末までに豊岡なぎさの森、真崎古墳群の除去土壌の一部を移設、埋設処分し、秋頃までに環境省において空間線量率や地下浸透水の放射能濃度測定を行うこととなっている。移設の完了時期に関しては年内を目途としている。

最後に、石神コミュニティセンターの内装改修工事についてお伝えする。建築から約30年が経過し、皆さんに安全で安心して御使用いただくために工事を行う。工事期間に関しては6月21日から来年の2月28日を予定している。明日、現場事務所も設置し、工事の着手は7月17日からの予定となっている。11月に石神地区の祭りも予定されていることから、まずは多目的ホール、調理室、1階の和室を中心に工事を行う。これまで石神コミセンの予約は工事のスケジュールが決まるまで一時停止させていただいたが、7月13日午前9時から2階の会議室と2階の和室の予約受付を再開する。

**福祉部長：**福祉部はこれまでの4課体制から今年度6課体制となった。増えた2課についてだが、介護福祉課が高齢福祉課と障がい福祉課の2課に分かれ、昨年より1課増えた。これは高齢者の居場所づくりや雇用促進を図る狙いがある。また、所管業務の入れ替えがあり、これまで村民生活部だった住民課が福祉部となった。本日は2つの事業について紹介する。まず1つ目は病児病後児保育の実施に向けた整備についてである。村長から話があったように、東海病院の敷地内に施設を整備し、病気にかかっているおおむね生後6ヶ月から小学6年生を預かることができるものである。平成31年5月のオープンを目指して作業をしている。

2つ目は、子ども医療費の助成制度の拡大について話をする。詳しくは広報とうかい7月10日号をご覧いただきたいが、村では10月から医療費の助成対象を中学3年生から18歳の高校3年生まで拡大する。それは茨城県の医療助成制度、通称マル福が18歳まで拡大されることを受けて実施するものである。村は県の制度に上乗せして助成するほか、所得制限により県の制度が受けられない場合でも村では助成対象とすることとしている。この制度により、妊娠出産から子どもが18歳になるまで切れ目のない支援をすることで、経済的負担を少なくできると考えている。

最後に、石神地区に関することを紹介する。7月4日に石神コミセンを発着とし、みんなですこやかウォーキングを開催する。石神コミセンから願船寺、石神城址公園、長松院を歩く3.2kmのコースと、少し短い2.2kmのコースがあり、石神の歴史にちなんで「歴史ロマンの道コース」とも呼んでいる。ご自身の体力等に合わせてコース選択もでき、事前申し込みも必要ないのでぜひご参加いただきたい。

**産業部長：**産業部は今年度新しくできた部であり、産業政策課と農業政策課の2課で構成される。これまでの商工業、農業関係に加え、新たな産業の創出など産業振興部門を担う部としてスタートした。まず、産業政策課であるが、大学と企業、高校と大学が連携して原子力関係の人材を育成する事業を平成28年度から実施している。ま



## 石神地区 村政懇談会

た、今年度は原子力関係を地域の産業と結びつける取組として、セミナー等を開催することとしている。このほか、現在村内15事業所でおすすめセクションとして21品目取り扱っている。東海村の魅力を発信するため、おすすめセクションを活用していただければと思う。

次に、農業政策課に関することであるが、平成27年に策定した東海村農業振興計画という10年間の計画がある。この計画に基づき、新規就農者や認定農業者の支援を行っている。また、JAの直売所や大型商業施設等で7月中旬頃に「とうかい育ち」というシールを貼った東海村産の農産物が販売される予定である。そのシール集めると商品がもらえるキャンペーンを実施する予定である。東海村の地産地消という観点から皆様に御支援いただければと思う。最後に、今年度からJA常陸と連携をして輸出米に関する調査研究を始めたことを紹介する。今後海外展開を図れるような取組をしたいと考えている。

**建設部長:** 先日のクリーン作戦に参加、協力していただき、この場で御礼申し上げる。建設部は都市整備課、区画整理課、下水道課、水道課で構成されており、今年は「災害に強い社会基盤の整備」、「国体に向けたインフラ整備」、「地域の特性を活かす土地利用」の3つの目標をかかげてまちづくりをしている。皆さんの地区に関係するものとしては4点あり、まず1つめが国道6号拡幅についてである。現状としては榊橋から原電通りまでは4車線であるが、原電通りからは笠松の行政界までが2車線となっており、慢性渋滞が起きている。関係自治体との協議、要望活動、国との勉強会など行っているが、厳しい状況となっている。4車線化については、避難道路確保や地域活性化の観点からも重要事業と捉えており、地元の方を中心とした協議会の設置も効果的であることから、今後とも地域の皆様の協力をいただければと思う。

次に、災害に強い基盤整備であるが、避難道路として、石神城址下の竹瓦地内、村道1382号線において現地測量をとりまとめた。地元と協議しており、今後設計に入っていく。また、基幹避難所の表示についてだが、道路標識の場合は一定の規格があるが、施設の案内表示については分かりやすく、避難所までの円滑な誘導を図るといった観点から場所や大きさ等について周辺市町村を調査しながら検討したい。

3点目が生活道路の整備ということで、東海スマートインターから国道6号に向かう村道1014号線については、6月27日から石神外宿一区と協議を始めた。今後は地区自治会と整備に向けた協議をしていく予定である。また、生活道路の補修については、地区の要望等を踏まえて更新工事を行っていきたいと考えている。最後に、下水道事業についてだが、国道6号、外宿地内において工事を予定している。

**教育部長:** まず初めに、4月7日に予定していた石神城址さくらまつりについては中止になってしまったが、自治会の皆さんからの支援に感謝申し上げます。来年度も御支援いただければ幸いです。さて、教育委員会からは3点お伝えしたい。まず1点目は国体に関することである。資料の4枚目を御覧いただきたいが、現在ボランティアを募集しているのでぜひ応募いただき御支援いただきたい。ボランティアの活動内容

# 石神地区 村政懇談会

は駐車場整理や環境美化など少し過酷なものになるかもしれないが、運営の一部に携わることで良き思い出になると思う。

2点目だが、資料5枚目に昨年策定したスポーツ推進計画について載せている。目標として、5年後に村内成人の週1回のスポーツ実施率を60%にしたいと考えている。現在は約35%となっているので2018年から2022年の間に高めていこうとしている。ユニフォームを着てきちんとやるものだけではなく、簡単なジョギングなどから始めていただければと思う。

3点目は資料3枚目にある「とうかいまるごと博物館」という事業を紹介する。この事業は東海村全体を屋根のない博物館と捉えて行っている事業である。東海村全域をフィールドに、歴史や自然に親しんでいただいて郷土愛をはぐくんでいただきたい。2018年度の前期メニューを紹介しているので、ぜひ親子で参加していただいて思い出を作っていただきたい。石神地区では直近で言うと8月7日と9月30日に予定している。

**議会事務局長：**議会は行政機関と違い、議事機関となり、20名の議員からなる。議会事務局では円滑な議会運営を図っている。6月1日から20日まで第2回議会定例会が開催され、20名のうち15名が一般質問し、執行部側の考え方や事業の執行状況を確認した。また、議会の映像はコミセンのほか絆でも放映している。ちなみに、今回の議会の傍聴者数であるが、実際に議場に來た方は68名おり、コミセンと絆で傍聴された方は152名いた。石神コミセンで傍聴された方は19名いたが、もう少し増えると嬉しい。7月25日に議会だよりが配布されるので、詳しい内容についてはそちらを参照いただきたい。

## 【5. 自由質問（一問一答形式）】

**竹瓦区住民：**今度、石神城跡は県指定の文化財になったとのことである。私は常陸太田市で民謡を習っているが、常陸太田市では秋田市、仙北市と姉妹都市提携を結んでいる。石神城跡は佐竹氏と関係があると思うので教育の観点から姉妹都市提携を考えてほしい。また、原子力関係に関してだが、東日本大震災以来、原子力関係の人材不足が問題になっていると思う。何か問題が起こった際、人材不足は大変なことである。私は昔、通信関係会社で働いていたことがあるが、事故があった時の通信関係が心配である。オフサイトセンターと連携するなどして検討してほしい。

**教育部長：**石神城址公園は県指定の文化財に平成29年12月25日に指定された。石神城跡の整備基本計画をこれから作っていく段階である。平成30年～31年の2年間で地域の皆さんにも御協力いただくことになる。御意見をいただいた件に関してはその中で検討することも考えられるが、地域の盛り上がりも大切だと考えている。一緒に進めていきたい。

**産業部長：**産業関連の観点で申し上げると、地域の原子力関連の中小企業の人材不足から、関連会社の人材確保のための対策をしている。

## 石神地区 村政懇談会

**村長：**質問の意図としては、施設の安全管理の事だと思う。原子力開発機構の研究施設もやっと動いたが、知識を持った人がいなくてはならない。大手事業所にはしっかりと施設の安全管理をやってもらう。実際には原子力開発機構も社員ばかりではないため、関連会社の方もいないと機能しない。関連会社の人材についてもできるだけ確保したいと考えているので、村としても協力していくが、会社側も自分たちの責任でやってもらうようにする。

**村民生活部長：**オフサイトセンターは現在は通常業務を行っている。各家庭に防災行政無線を配っているが、現在はアナログ形式で行っているため、今後はデジタル化にするよう検討している。

**外宿2区住民：**道路の事をお伺いしたいが、村の幹線道路ということで原電線が改修工事されている。この改修工事に関しては、村の第4次総合計画の際に石神地区委員会の意見から取り纏めされたことと思う。原電線の異常について調べたことあるが、歩道幅が極めて狭いと感じた。そのため、順次歩道幅を広げてもらっており、7年かけて「石神コミセン入口西」という信号の所まで広がったが、その場所までで終わってしまうのか。今後国道6号まで繋げるのか。また、長松院の前の歩道が狭いが、信号や案内標識等で狭くなっている部分がある。柱を中空構造ではなく中樞構造やプレートにし、縁石などに立てられるよう改修できないか。道路の考え方と、長松院の前の歩道について聞きたい。

**建設部長：**原電線の歩道整備については、マラソン道路までは整備が完了した。通学路という観点からは、小学生はマラソン道路と原電線のT字路にある信号を渡るためにマラソン道路から国道6号までは通行量が少ないと判断し、現在の計画をマラソン道路までとしたところである。

**外宿2区住民：**通学路としての利用率は低いですが、外宿に住んでいる人にとってはあの部分が危険であるため、わざわざ二軒茶屋の方から東海高校へ行っているという話も聞く。そのような不安要素がある。

**建設部長：**長松院の歩道についても狭いということであるので、現場を確認したい。また、マラソン道路から国道6号の歩道に関しても現状を確認したい。

**外宿1区住民：**村長の地域づくりについての話だが、緑ヶ丘や亀下を指定し、地域でフィードバックしたり、地域で考えてほしいということであったかと思う。石神地区がその対象になった時のことを考えると、今回のモデル地域の選定結果を踏まえて、高齢化であることなどから、村としての地域の個別のサポートを考えてほしいと思う。地域で考えるにしても限度があると思う。村でいかに先導していくかが成功するかしないかに関わってくる。亀下をモデルに選定したということで、どのようなことを行っていくのか決まってきたと思うが、現時点のタイムスケジュールを教えてください。

## 石神地区 村政懇談会

**村長：**細かい進め方に関してだが、亀下区は既に一度自治会長との話し合いの場を設け、さらに役員にも集まってもらった。亀下区は世代間のバランスも良く、若い人も住んでいる。各世代同士が集まり、亀下の今後について一緒に話し合っていければ良いと思う。今の良さを残していければ良いが、何を残すのか考えていきたい。地域でできることは地域でやってもらい、支えていく機能を残してほしく、私見であるが、亀下区は若い人も残っているのでやっていけると考えている。一方で、緑ヶ丘は若い人が減っており、いくら考えても担い手がいない。そこに役場職員を置けば良いとの意見もあるが、役場職員は行政業務をやっているのも無理である。そこで、3年間の期間の限定などはあるが、地域おこし協力隊等の活用も検討していきたい。その地域おこし協力隊で来た人がその場に残って商売を始めるなどの展開が理想である。現在60～70歳台の人が今後活動を継続していくのには限界があると思う。次の世代がいる地域とそうでない地域があるが、活動してくれる人をどうやって見つけていくかも含めて考えていきたい。役場に先導してほしいとのことだが、役場がやってしまうと地域の個性はなくなってしまう。しかし、その地域で実際に汗をかく人は役場で見つけないといけないと思う。本当はもともと住んでいる人が良いが、その人がいなければ外から引き込むことも考える。まだスケジューリングされてない部分もあるが、地域の実情も違うので単位自治会でやっていかないといけないと思う。大変な作業ではあるが真崎地区では自主的な活動を始めているところもある。現在は亀下区と緑ヶ丘区をモデルとして考えているが、自分たちの地域でやることを考えた時に、考えている方法が地区の実情と合っているのかそうでないのかも含めて話し合いをしたい。よく言う「住みよいまちをつくりましょう」や「安全なまちをつくりましょう」といった地域計画は全く意味がないと思う。より具体的なもの話し合いをしなければいけないと思う。この未来ビジョンについては私の頭の中だけで進んでいる話であり、独断でやり始めている。そのくらい危機感をもっており、誰かが始めないといけない。しかし全ての単位自治会について私ができるわけではないので、今年度から始まるものを参考にできるところは自主的にやってもらいたい。

**竹瓦区住民：**よく「自助、共助、公助」と言うが、個人的には「近助」をどうにかしたいと思っている。しかし、今の話を聞くとなかなか難しいのかもしれない。

**外宿2区住民：**先ほど、週1回以上のスポーツ実施を推進するという話もあり、スポーツをするために中丸コミセンへ通っているが、中丸コミセンから明治屋のT字路を左折して帰る際、イチョウの木が視界を遮り右側から来る車が見えない。確認しようと少し前に出ると車が勢いよく走ってくる。イチョウの木の下から2m程度刈っていただきたい。小さい話になってしまうが、年寄りも多く、整備をお願いしたい。

**建設部長：**あの道路は県道になるので、現状を確認し、村から県に伝えたい。

**村長：**大宮土木にしっかりと伝える。

## 石神地区 村政懇談会

**内宿2区住民：**(仮称) 歴史と未来の交流館が建設されるとのことだが、場所はどこになるのか。村全体の教養を高めるために話を進めてほしいと思う。

**村長：**消防署の隣に建設予定である。

**教育長：**石神地区から遠いが、東海村のちょうど真ん中あたりになっている。子どもたちはヘルメットをかぶって自転車で行けると思うので、小学4年生あたりからは子どもだけでも行ったり来たりできるようになるはずである。よろしくお願ひしたい。

**外宿2区住民：**先日、健康増進課主催の研修で妙高高原に行き、村のバスを利用したが、あまりにも乗り心地が悪かった。聞く話によると、19年来使用しており、既に25万km走っているとのことである。妙高高原は標高750mにあり、高速道路だけで372km走る。マイクを持って話す人の声がエンジン音で聞こえなかった。今でもこんなバスがあるのかという感想をもった。このバスをいつまで使う予定なのか。事故があって新聞等で報道されるのを見たくはない。タイヤが外れて事故になるなどがないうちに買い替えてほしいと正直思う。

**企画総務部長：**村のバスは長年使っていることもあり、故障も見られている。今年度中には買い替えるのが良いのかリースが良いのか等も含めて方向付けをしたい。できるだけ安全なものにしたいと思う。

**外宿2区住民：**バスは今なかなか買えないという話であるので早めに計画してほしい。

**企画総務部長：**来年度に向けて予算化できるように検討する。

**内宿1区住民：**1年に5回くらい民生委員や班長等、協議員で話し合いをする機会があり、その中で県営住宅の樹木が大きくなって困っているという若い母親方からの話がある。県の事務所にも伝えたいが、予算の関係で対応が難しいという話である。深刻な話であり、若い人の意見でもあるので、県に困っているということを伝えてほしい。

**村長：**県の住宅課に伝える。県は予算が厳しいので維持管理の予算を削っているが、そうは言っても入居者のサービスは大切であるのできちんと対応してもらいたいと思う。

**竹瓦区住民：**先ほどから石神小学校や、石神城址公園の話が出ているが、先日、校長先生と懇談する機会があり、石神小学校の児童は石神の区域外に遊びに行っているという話があった。石神地区にはコンビニもなければ公園もなく、子どもたちは自転車で外に遊びに行くしかない。また、先ほど教育長からも話があったが、石神小の児童数は242名であり、5年生の学級は1名増えれば2学級になったという話も出た。石神城址公園の整備計画があるという話だが、現在はフレコンバックがあるから整備されていないのかもしれないが、雑草がたくさん生えており歩けない状況である。普段でも整備に気を配っていただきたい。もう1点であるが、地域づくりに関して、若

## 石神地区 村政懇談会

い人もいるので亀下区をモデル地区指定したとのことであったが、亀下区がモデル地区だというのは少し違うと思う。若い人が住んでいると言っても、もともと住んでいた人が土地を売却して、他から引っ越してきた人が多く、石神地区と比べてみると条件がちょっと違うと思う。今後、自治会長とも一緒に考えたい。

**教育部長：**石神城址公園の除草についてだが、7月中に除草する予定である。

**村長：**地域づくりに関しては、おっしゃるとおりで、竹瓦はまた状況も違い特別であると思う。久慈川沿いで豊岡、亀下、竹瓦、外宿2区は共通している部分はあると思うが、生活の利便性や住んでいる方の年齢層も違うと思う。竹瓦区は竹瓦区に合ったやり方を考えなくてはならない。亀下区に住んでいる若い人がそれをやってくれるかはまだ分からないが、まずは人を探すところから始めなくてはいけない。若い人が住んでいない地域はまず他から見つけることを考えなくてはいけない。

**内宿2区住民：**再三にわたり要望している件だが、にじのなかができたことにより、人の流れが変わり、横断歩道が必要になったと考えられるため、村に要望したが県の案件ということで断られた。それは無責任だと思う。また、再度確認した際も横断者が少ないということで横断歩道の設置はできないと言われた。事故があったらどうするのか。内宿2区の横断歩道は長松院とウィングという店の所にしかない。にじのなかに行くのに危なくて渡れない。内宿2区は集会所が道路の反対側にあり、資源ごみを集める場所はそこしかない。朝の一番車が走る時間帯に自転車で資源ごみを運びながら渡る人もいる。県の道路だから対応できないという回答ではなく、事故が起きる前に土俵にのせてほしい。大変困っているのでよろしくお願ひしたい。

**村民生活部長：**以前にも要望をもらっており、当時は県との調整の結果、横断者が多くないとのことで回答させていただいた。しかしその後、にじのなかだけでなく、障がい者施設の建設なども進められており、状況も変わってきていると思う。再度ひたちなか警察署と調整し、結果について自治会に報告したいと思う。

**内宿2区住民：**ぜひいつまでに回答できるのか自治会長に約束してほしい。

**その他住民：**この議事録は公開されるのか。

**村民生活部長：**村のホームページ等に載せる予定である。

以上